



ASPAC クラークフィールド大会

2015. 3. 5 ~ 7

3月6日、7日の両日フィリピンのパンパンガ州クラーク・フリーポート・ゾーンにて第40回キワニス ASPAC 大会が開催されました。全体で800名ほどの参加者のなか、日本からは41名、東京からは15名が参加しました。

6日の開会式には国際本部から Dr. John Button 会長、Sue Petrisin 次期会長、Stan Soderstrom 専務理事ほか参加され、小学生、大学生、盲学校の生徒たちによるフィリピンの歌や踊りが各所にちりばめられた明るく陽気な開会式となりました。6日の晩には歓迎夕食会が開催され“Fiesta Kapampangan”のテーマで地元のパンパンガ州の祭りが演出されました。7日には恒例の早朝 Eliminate



Walk が開催され 200 名を超える参加者がありました。

6日午後の総会では、各ガバナー報告、特記すべき地域活動の報告（日本からは初めてのサークル K クラブの誕生を報告）、規約改正の審議と ASPAC 役員選挙が行われました。オーストラリアが提案した ASPAC 剰余金の運用方法の変更の規約改正案は、審議の上否決されました。

選挙では台湾の Chin-Hsian Lu 氏を議長に、マレーシアの LEE Kuan Yong 氏を次期議長に、フィリピンソンの Trinidad "Toto" P. Gonzales 氏を副議長に選出しました。

閉会式（夕食会）では、重ねてフィリピンの歌や踊りが披露されました。各地区の文化パフォーマンスも演じられ、日本は参加者全員で“恋するフォーチュン・クッキー”を踊り、最優秀賞を受賞しました。

展示では、高松クラブの少年ボランティア発表会が好評を得ました。総じてフィリピンらしい明るく楽しい大会であったと言えます。また、時間の管理もフィリピン流であったと言えます。

これに先立ち3月5日には ASPAC の役員会が開催され、将来の開催地等が議論されました。

また3月3日、4日の両日には次期の地区役員のための研修会が開催され、Mr. Lu 次期 ASPAC 議長の下、キワニスの成長戦略他についての研修と戦略目標が議論されました。この研修には日本地区から倉田次期ガバナーほか参加しました。（吉田浩二会長）



ASPAC クラークフィールド大会に参加して 2015. 3. 5 ~ 7

現役時は海外営業部長の仕事柄、アジアには100回以上、フィリピンにも数回の出張をしましたが、キワニス2年生の私にとって初めての海外での国際大会参加の3泊4日の旅でした。

3月5日7時に自宅出発、8時羽田国際空港着、9:35発 ANA809 便にてマニラへ向かった。近頃は出発30分前迄のチェックインが可能になり、更に羽田発であれば成田空港利用より格段に近・早・楽という状況を実感した。13:00 マニラ空港第3ターミナル着。真新しいターミナルビルで、導線も、荷物受取も円滑。ムットとする暑さ湿気、南国気分になり、出口ではキワニスの女性が笑顔で出迎えてくれて、一安心。この後、「えー?!」の連続が待っていたのは神のみぞ知る。

成田空港発 JAL 便の第1ターミナル到着組数名と合流して送迎車で宿泊先へ向かう予定だったが現れず、不安になる。スマホを覗くと、自動的にマニラモードに切り替わっていて、互いの連絡可能になり、IT機器の進化には感謝。待つこと1時間半、やっと仲間の顔が見えて、安堵。予約車が故障したり、運転手が合流地点を間違えたり、各種トラブルがあったと聞かされた。2台分を1台に同乗して8人乗の送迎車が出発。道は車が溢れて大渋滞、高速道路へ入るまではノロノロ運転、クラークフィールドまでは60km足らずの筈だが、2時間30分かかった。

マニラの北西、米空軍基地返還跡地を経済特区にして、台湾系、韓国系のデベロッパーがリゾート事業経営をしている様子。広い敷地にゴルフ場、ホテル、コンベンションセンターが配置され、樹木や花が生い茂り、高温高湿の熱気に包まれ、気分は完全にバカンスモード。然し、キワニスクラブとして事前予約済の私達でさえ、チェックインもチェックアウトにも1時間を要して、イライラ気分高揚。女性チーム4人は2人ずつヴィラタイプの部屋に滞在したが、バスタブはなく、シャワーのみ! ホテルのフロント、会場、夕食会、そして朝食へも、移

動する都度、巡回バスを電話で呼ぶシステムだった。

やっと各自の部屋に身を置いた時には、疲労困憊。東京女子3人だけでホテルレストランで簡単な夕食を取って、1日目は早々にオヤスミナサイ。

2日目からは、公式行事のプログラムに従って行動しようとするが、何かをする度に場所を探し回り、予定時刻に間違いがあったり、予定時刻からかなり遅れて開始したり、等々。大会運営も大いに南国モードであった。朝、昼、夕食、全てが同じ会場であったためか、味が単調で、日本人にとっては黙々の日々であった。

2日目の午前中、日本チームがほぼ顔を合わせた処で、急遽、閉会式イベントの演目の練習をしようということになった。出発直前、石原事務総長より、「AKB 48・恋するフォーチュンクッキーを浴衣姿で唄い踊る」との指令を受けていたが、私はAKB 48さえ見るも聞くも初めてで、この30分が唯一のリハーサルであった。これで明日の本番になるのかしら???

その後は、開会式に参加し、ASPACの雰囲気身を置いた。

役員では無いメンバーにとっては、閉会式までは自由時間。東京女子会は、「フィリピンバナナ」を食べたい一心で、ホテルから出て、太陽をたっぷり浴びて歩き回ったが、収穫ゼロ。経済特区には青物市場は存在しない。翌朝、男子チーム遠征組から戦利品のバナナを分けられて、やっと口に入れた。今回のツアー中で最も美味しい食べ物だった。

3日目、前日の反省により、私1名のみはタクシーチャーター男子遠征組に編入させてもらい、マニラ湾の海軍基地ツアーに出かけた。地図を携行しなかったので、地名が不明で、恥ずかしや。日本ODAで建設した高速道路は大層立派、前後に車は見えない、貸切状態で1時間余りスイスイ走った。日本のようなカーナビシステムはあり得ず、地道に下りてからは、運転手は10分置きに、誰かに道を尋ねながら走るという状況。スービック旧米海軍基地周辺の地形と、遥か遠くに2隻の軍艦(?)を見るところまで。ここは1942年から1945年まで旧日本海軍基地であった。青い海原を見て遥か70年前に想いを馳せた。その後、マシなレストランを探して走っているうち、洒落た建物が目に留まった。スペイン統治時代を偲ぶスペイン風建屋やレストランを集めた、明治村ならず、スペイン村、名前は Casas Fillipinas de Acuzar。初めて観光気分を味わえた。

タクシーの車窓から目に入る、村、道路、民家、お年寄り子ども達の姿は、黒澤映画張り江戸時代さながらの、完全エコロジーな光景だった。民家には洗濯物が満載、一家に10人位の子どもがいるのは明らか。敬虔なクリスチャン、避妊はタブー、子どもは自然体で



産まれる。この国の主要産業は海外で稼ぐメイドや工事作業の外貨収入であるが、そのリソースを目の当たりにした。

帰り、「今日走ったのは、『死の行進』で有名なバターン半島の一部でしたよ」と聞かされた。このプライベートツアーに便乗したことで、この旅の彩りが別なものになった。

閉会式は盛沢山のプログラムが用意され、参加国全チーム出場の芸能大会で最高潮に。前述通り、日本はたった1回だけの練習で、本番。本格的和装姿あり、

日本のホテルロゴ入り浴衣姿あり、浴衣の下はズボンに黒皮靴というご仁もいる、という漫画チックな様相。結果は日本が優勝！AKB48のアジアでの知名度と、浴衣姿の面白さが勝因だったのでしょか？

嬉しさを胸に、翌朝、それぞれの日本帰国路に着いた。チェックイン時の学習経験を活かし、十分に余裕を持って空港に向かったのは言う迄もなし。

暑かった、人がいっぱいいた。空港が新しかった。旧米海軍軍基地は、旧日本軍基地でもあったのだ。

(寺崎志野広報委員長)

ユースフォーラム交流会 2015. 4. 11

4月11日(土)に、ユースフォーラム交流会が帝国ホテルタワーのタワーズワトソンの会議室で開催されました。参加された加盟団体は、かものはし学生部ゆるかも、JUNKO Association、身延山高等学校、田園調布学園、劇団虹、ガールスカウト群馬県連盟の6団体から、担当されている先生方を含め20人の若く、元気なメンバーが参加されました。

東京キワニスクラブからも、吉田会長、前Kファミリー委員長の杉田会員をはじめ、Kファミリー委員を中心に10名が参加し、会長からの最近のキワニの活動紹介から始め、各加盟団体の最近の活動報告をいただきました。後半では、杉田会員からNPO活動を進める上



での基本的な考え方のフレームワークの講義を受けた後、3グループに分かれてのユースフォーラム

の活性化策をテーマに活発な討議を行い、各グループの学生の代表者から討議内容を発表してもらいました。



加盟団体の学生さんは、今後も引き続きユースフォーラムに参加したいという意向も強く積極的にディスカッションに参加いただきました。発表内容では、自分の学校の学園祭を活用する相互の活動紹介の機会づくり、ユースフォーラムの身延山での合宿、ユースフォーラム企画チームの立ち上げなど、極めて魅力的なアイデアが多く報告されました。

これらのアイデアは、ユースフォーラムの今後の活動の指針につながる、とても貴重なインプットとなりました。また、グループ討議の際に提供した、帝国ホテルのクッキーも大好評で、全般的に満足度の高い交流会だったと嬉しいフィードバックをいただきました。

(淡輪敬三 Kファミリー委員長)

ユースフォーラム交流会に参加して 2015. 4. 11

春の花盛り、陽気もよし。狩野さんから緊急招集。「けいふぁみりー？」事情は良くわからないが、「私は、どうやら飛び込みの応援団役らしい」と、ぼんやり理解。スーパーに買い出しに行く凛々しいでたちでタクシーに乗る。行先は、Kファミリー委員長の淡輪さんの「領地」の帝国ホテルタワーの1室。ただ今参上。ざっと40人程の高校生と大学生で部屋は既に熱気ムンムン。本日の目的は、ユースフォーラム会員とキワニスクラブとの懇親と協働の機会の模索とのこと。

カンボジアの子どもの人身売買問題に取り組むNPO法人かものはしプロジェクト学生ゆるかも、ベトナム・

ミャンマーの子どもの教育支援に奮闘しているJUNKO Association SRプロジェクト、ミュージカルを楽しく演じている劇団虹、耳が不自由な方々に対する偏見をなくすべく手



話で地域社会活動をしている身延山高校手話部、キワニスドールの作成をしている田園調布学園家庭部。たじたじ。3つのグループに分かれて、ディスカッション開始。大学生達は、自分の団体の活動内容を説明し資金援助を申し込むほど積極的。高校生達は、あどけなくも社会奉仕の意識もエネルギーも大人顔負け。日本の将来は明るいです。

大学生から、杉田さんの共振論に感銘して、「今後の広報活動では、広い社会に私達の考えを共振させるべく工夫します」と即座の共鳴あり。賢い！

高校生から、「キワニスドールを作っているが、これがどう使われるか訊かれても答えられない」との鋭いフィードバックあり。吉田会長も磯田さんも反省しきり。杉田・北里・狩野さん達のグループも活発にディスカッションしたらしい。青野・中村さん達のグループでは、「身延山に皆で行こう」と盛り上がったように理解している。小さくても何か一つ一緒にできれば、きっと何かが動くと思う。キワニスクラブの面々の、珍しく紅潮した笑顔からすると、本日も大成功か。（仲村渠千鶴子会員）



「キワニスドールをつくる会」報告 2015. 2~5

2月から5月にかけて、ボランティア活動委員会委員ほか会員多数の参加の下、以下の企業においてドールづくりが実施された。

- 2月 三井住友海上火災保険株式会社、
アクセント株式会社
- 3月 株式会社 GAP
- 5月 MSD 株式会社 本部、
MSD 株式会社 妻沼工場

(注) なお、ファミリーデー(5月29日)においても、久しぶりに会員、家族によるドールづくりにいそしみました。

この時期は、社会貢献に取り組む企業が中心となりました。ドールの社会的役割についての理解が深まり、定期的にドールづくり



▲ 2月20日 アクセント株式会社にて

を企画して下さる先が増えてきている中で、繰り返し参加される社員が増えているのが印象的です。なお、5月に星、高坂、細田各委員がMSD(株)の群馬にある妻沼工場に出向くなど、支社レベルへの協力を求められるようになってきました。こうしたことは、ドールの意義が一層広く理解されることにもつながり、大変嬉しく有難いことではありますが、一方で、こうしたニーズの高まりにどう向き合っていけばいいのか、委員会として検討していきたいと思っています。

(片山仁志ボランティア活動委員長)

キワニスドールをつくる会に参加して 2015. 2. 4

去る平成27年2月4日に三井住友海上火災保険株式会社において開催されたキワニスドールを作る会に参加したのでその状況を報告します。

三井住友海上火災保険株式会社(以下「MS&AD」と略します。)では、従来から社会貢献活動に力を入れてこられてきましたが、昨年からはその一環としてキワニスドールを作る活動を行っております。今回はその第二回目である2月4日の午後5時半からMS&AD本社の駿河台新館

ビル5階会議室が提供され、有志の皆さんが参加してくださいました。

参加されたのは、MS&ADの側は、花角課長代理さん以下17名の皆さん。東京キワニスクラブ側は吉田会長以下8名、総勢25人でキワニスドールの作成に取り組みました。今回は、綿づめばかりでなく綿穴の縫い目綴じまで行いましたが、皆さん去年の経験のある方が多かったせいか(?)とても手際よく作ら



れ、縫い目縫じもきれいに作られておりました。時間は5時半から7時過ぎまでと短い時間でしたが、皆さんの頑張りにより最終的に29個のドールが完成しました。主催された花角さんの手際よい進行と参加者の皆さんの活躍で後片付けも手際よく進み、模範的なドールづくりになったと思います。参加されたみなさんお疲れ様でした。
(磯田壯一郎メンバーシップ委員長)

第7回キワニスドールシンポジウムを開催して

—優しさに包み込まれた小さな天使の仲間たち— 2015.5.16

1、概要—163名が会場を埋め尽くす

5月16日(日)午後2時から4時30分まで、埼玉キワニスクラブとの共催で、国際キワニス100周年を記念した第7回キワニスドールシンポジウムを(株)パソナ本部にて開催しました。日頃の企業・学校等のボランティア活動に対する協力や関東圏のクラブ(横浜、千葉、千代田)への働きかけ、事前のマスコミ告知(読売、東京)も奏功し、当日、163名の方が会場を埋め、終始、真摯かつ熱心なシンポジウムが展開されました。

総合司会の仲村渠会員の当意即妙な進行と、パネルディスカッションの司会担当の松本会員の質の高い質疑の誘導とまとめにより、予定時間を超過したものの、進行はスムーズに流れ、参加者にとって実り多く、「ドール関係者の情報交換・共有」の所期の目的がそれなりに達成できたのではないかと、思われました。

なお、サッポロホールディングス、東芝、BTジャパン、伊藤忠の協力も受け、東京、埼玉クラブ会員、事務局、パソナ社会貢献室の献身的な役割分担で会場設営から受付等庶務的なロジ周りも全て順調に推移しました。

2、プログラム—小さな天使の優しさを共感

当日は、冒頭吉田会長の挨拶に続いて、キワニス奉仕賞の日黒星美学園が表彰され、また平素ドール制作に献身的に貢献されているボランティア8団体に両クラ



ブから感謝状と謝礼を贈呈しました。

続いて、3名の方からドールシンポの基調報告が行われました。当クラブの細田会員から「ドールの概要(生い立ちから現状)」について詳しく報告がなされ、次に、国立成育医療研究センターの越看護師から、医療現場におけるドールの使用について、子どもの心に寄り添う生き活きたドールの活用状況が仔細かつ丁寧に説明がなされました。最後に、制作者側を代表して、埼玉クラブの「いきがい大学伊奈学園のボランティア団体(代表小林さん)」から、子どものためにドールをいかに品質のいい作品に仕上げるかを会員総出で模擬実演されました。

その後、メインのパネルディスカッションに移り、これには、基調報告者3名のほか7名の方がパネラー(使用者側3名、制作者側4名、クラブ会員3名合計10名)として加わりました。東大附属病院の割田さん(子ども療養支援士)、東京医科大学看護学校の弓野先生が医療現場から、また、奉仕賞に輝いた日黒星美学園高校1年生の関森さん、東京ボランティア団体を代表して小さな天使の長谷さん、企業を代表してパソナの山本さんが、制作者側からの意見を述べ、クラブ代表として星さん(東京)と澤田さん(埼玉)がコメントした後、会場からも3名の方から率直熱心な意見が出されました。医療現場での手術前プレパレーションにおける活用のほ





か、小児心の癒しと成育につながっていること、病気の父母を想う子どもと親の絆としても有益であるなどの話にも耳が傾けられ、またドールがいかに愛情をもって丁寧に制作されているかを知ることができ、利用者側、制作者側相互に実のある情報交換となりました。

最後に埼玉クラブの男澤次期会長の挨拶をもって、盛り上がったシンポジウムを閉会し散会となりました。

3、印象

一さらなるドールニーズの広まりにどう向き合っていくか
会議を通じて、私にとって特に印象に残ったことは、

小さな天使が子どもたちのためであることは当然として、天使に携わる大人自身の安らぎにもつながっている、ということでした。このため、会議全体を流れた空気は、ドールが「みんなの心を優しくしてくれる」ということではなかったか、と思われました。改めて、ドールの役割の大きさを実感する一方で、それだけに、これからさらに医療機関、用途の広がりが予想されることに対し、制作者の確保、制作技術の向上、さらには関東圏に属するクラブの需要と供給バランスの調整等の諸問題に、今後東京クラブとして、どう向き合っていくか、多くの課題も投げかけられたようにも思われました。

いずれにせよ、関係者の皆様に感謝しつつ、子どもたちとキワニスクラブをつなぐ小さな天使を肌で感じた安らぐ一日でありました。

因みに、当日のアンケートの集計結果によりますと、3分の1の方が、初めてシンポに参加され、全員が「大変良かった」か「良かった」の印象をもたれたとのことです。また、ほとんどの方が、ドールの趣旨に賛同され、この運動がさらに広がることを期待したいとし、その上何らかのかたちでドールづくりに参加したいとの声が寄せられています。（片山仁志ボランティア活動委員長）

キワニス奉仕賞 2015. 5. 16

第5回キワニス奉仕賞は、目黒星美学園中学高等学校が受賞され、5月16日に東京大手町のパソナグループ8階ホールにて開催された、キワニスドール・シンポジウムの席上にて贈呈式が行われ、吉田会長から賞状と副賞が贈られました。

目黒星美学園では、2010年に隣接する成育医療研究センターにおけるキワニスドールの活用状況を見て、生徒に是非つくらせてみたいとの先生方からの要望を受け、活動が始まりました。以来毎年夏休みと学園祭においてドールをつくる会を開催され、今後も熱心に継続的に取り組まれることが期待されています。

シンポジウムでは、学生さんの代表からドール製作についての具体的な活動や今後の取り組みについて発表がありました。（淡輪敬三Kファミリー委員長）



「キワニスドール・シンポジウム」の取材を受けて

2015. 5. 10、5. 12、5. 22

5月16日に開催された「キワニスドール・シンポジウム」が東京新聞（5月10日）、読売新聞（5月12日）に事前の告知を兼ねて報道され、5月22日には電気新聞に当日の様子が掲載されました。

- 東京新聞は最初から協力的で事前に報道を検討してくれるとの感触でしたが、比較的大きく紙面を割いて国際キワニス100周年の一環のイベントであることをはじめドールの使われ方、シンポジウムのプログラムも一部紹介されるなど参加申し込み方法も含めて報道してくれました。
- 読売新聞は事務局に取材があり、キワニスが国際的

奉仕活動を展開していること、最近では企業が社会奉仕の一環としてドール製作に協力していることも掲載されました。また、国際キワニス100周年のポスターを背景に当方がキワニスドールを抱えている写真が大きく載ってしまい、多くの友人、知人から電話やメールが届きました。時々行く基会所の基敵からも記事を読んだとの話もあり、思わぬところでキワニスの活動の周知に役立ちました。

両紙の報道後に一般の方々から事務局への参加申し込みが増加するなど東京、読売新聞の報道のおかげであると感謝する次第です。

●電気新聞は開催当日取材があり、当日の様を奉仕賞と感謝状が贈呈されたこと、パネルディスカッションの写真を掲載し、パネラーの簡単な紹介も含めて詳しく掲載してくれました。また、吉田会長の開会挨拶「キワニスドールは子どもたちに勇気と安心をもたらす存在、シンポジウムを通じて役割の重要性を発信していきたい」と当方のコメント「普段は作り手と利用者の顔はお互いに見えないのでこうした場合は貴重だ。理解を広め、製作に協力してくれる団体が増えてくれれば」も紹介されました。

なお、余談ですが、新聞報道を見てキワニスクラブは大変良い活動をされているとして事務局を訪れ寄付を置いていった方もおられました。

今回のシンポジウムについての報道がキワニスの奉仕活動について広く知っていただくことになりとも寄与したのではないかと考えています。

(古屋俊彦副会長)



▲ 5月10日 東京新聞

◀ 5月12日 読売新聞

5月22日 電気新聞▶



河原医療大学看護学科のブログに掲載されました

キワニスドールを使った授業を行いました

【小児看護学実習】



看護学科3年生の「小児看護学」の一環として、今年もキワニスドールを使用したプレパレーションの学内実習が行なわれました。

「キワニスドール」とは、無地の白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのシンプルな形で、目も鼻も口もありません。これは、医療関係者が小児患者さんとのコミュニケーションツールとして使われたり、幼い患者さんの心の支えになる特別な意味をもった人形なんです。用途に応じて、服や髪の毛を付けたり、似顔絵を描いたりします。実際には子どもの患者さん自身に自由に絵を描いてもらうこともあるそうです。

「プレパレーション (preparation)」とは、英語で、「準備、用意」の意味で、小児看護においては、子どもに対して治療内容などを分かりやすく伝えてあげること

により、不安や恐怖心を少しでも取り除いてあげてあげてをいいます。

今回の実習では、看護師が実際に患児に対して、検査や治療内容の説明を行っている状況を想定して、班に分かれてロールプレイングを行いました。

キワニスドールを使って病状について説明をしたり、子どもの前で実際の注射の手順を演じることで、恐怖心を和らげることができます。

それ以外にも、各班がそれぞれに工夫を凝らしたプレパレーションを行うことができました。



今回学んだ知識や技術は、後期の「小児看護実習学」において、実際に患児と接する現場で活かされることを期待します。

3年生のみなさん、お疲れでした。これからもがんばってくださいね。



靖国神社「慰霊の泉」 献納記念昇殿参拝に参加して 2015. 3. 31

3月31日、恒例の靖国神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝が、吉田会長以下35名の参加を得て開催されました。1967年、創立間もない東京キワニスクラブが、明治百年を記念して献納した「慰霊の泉」は、50年近い歳月を経て老朽化していたため、昨年の東京クラブ設立50周年を機に、靖国神社、施工主の北野建設のご協力を得て大改修工事を実施しました。この修復に当っては、古屋前事務局長が中心となって、靖国神社、北野建設との打ち合わせなどに尽力されております。その

結果、本年の戦後70周年という節目を迎えて、設立時の清楚なたたずまいを取り戻す素晴らしい改修工事が完成しました。

慰霊の泉建設に当っては、基本的なモチーフが、「清らかな水」とこれを戦没者に捧げる「母」であり、かつ神社の性格上、具象的な「母」の像は相応しくないため抽象的な表現が求められるという厳しい条件が課せられていました。これに応えるため、会員だった著名な文芸評論家福田恆存氏の紹介により、彫刻家の井上武

吉氏に設計を依頼したそうです。福田氏はその出来栄えについて、「これはもはや単なる彫刻ではない、建築である、いやそれ以上のものである。単なる記念碑でさへもない。」と絶賛しています（以上東京クラブ「30年の歩み」より）。

参集した会員も、改修により鮮やかに甦った慰霊の泉を前に感慨深く佇んだり、写真を撮ったりしていました。私自身、折から満開の桜の下で一段と清々しい心持になり、大変意義深い時間を過ごすことができました。

合掌。 (吉國真一副会長)



2015年4月 国際キワニス役員会に出席して 2015. 4. 16

2015年4月の役員会は、いつもより短く2日半の日程で開催されました。1月のデトロイトでの国際評議会と100周年記念行事を合わせた行事と6月の100周年国際大会との間を繋ぐ役員会という位置づけで、開催されたと考えられます。今回は、国際キワニスの役員会での審議がどのように行われるのか説明したいと思います。

役員は国際会長以下20名です。委員会は、メンバーシップと教育委員会、監査と財務委員会、広報、イメージ、マーケティング委員会、プログラムとパートナーシップ委員会、ガバナンス委員会の5つの委員会があります。私は、この中で、メンバーシップ委員会と広報委員会の2つの委員を務めています。各委員会はそれぞれ4時間の審議を行い、各委員会としての議案に対する提案をまとめます。その上で役員全員による委員会全体会議を

約1時間開催して議案への提案事項を確認します。その後正式な役員会を約3時間開催し、役員会としての正式な機関決定を行います。この間、昼食、夕食はキワニスのオフィスビルでケータリングによる簡単なビュッフェで行い、更にホテルに帰ってから、8時30分頃から11時頃までホテルの1室に集まってドリンクしな



から懇談を行うのが常です。年に4回の役員会ですが、議案の一つ一つについて丁寧に時間をかけて審議した上で、意思決定をしていると思います。また、役員間のコミュニケーションを密にするように計らっています。コストについても、出来るだけ切り詰めるように工夫し、役員会の最終日は土曜日を当て、日曜日を移動日に当てるようにしています。また、実際の役員会開催の1週間ほど前に、最低2回の電話会議による事前内あわせや審議が行われます。日本から電話会議に出席する時間は大抵22時か23時の深夜になります。

今回の役員会で審議決定した事項は多数ありますが、目立った事項を挙げると、Online Voting について役員

会としてはサポートしないことを決定、Bridge the Gap のための Online Network proposal は Formula team で検討し、その結果をメンバーシップ委員会に上提することとした、広報コンサル会社の調査結果で北米では調査対象者の内28%がKiwanisについて知っているという結果の報告、それに基づき国際キワニス本部及び世界各地、クラブレベルまで含めて広報活動を戦略的に行う様に進める、インディアナポリス大会の概要説明、CFOによる財務報告等です。また、1月の役員会での決議事項ですが、国際会費の値上げ問題が議論の内容としては最も重要な問題だったと思います。

(北里光司郎国際理事)

秋田クラブチャーターナイトに出席して 2015. 4. 16

4月16日、花火で有名な秋田県大仙市大曲で秋田クラブが産声を上げました。東京から秋田新幹線で3時間半、大曲駅から徒歩で7-8分の国道沿いにチャーターナイトの会場大曲エンパイヤホテルはありました。瀟洒なホテルで南を流れる桜と花火で有名な雄物川に徒歩5分ほどで行ける場所にあります。

大曲という名称は、雄物川がこのあたりで大きく西に湾曲して流れる土地柄に由来します。

この頃大曲では、桜が5分咲きとなっており、東北では良く言う「三春」が現実のものになりました。即ち、梅も桃も桜も一斉に咲いてこの世の春を謳歌していました。また、こぶしも残り咲いていました。

秋田クラブは、日本地区32番目となるキワニスクラブで、もちろん秋田県では初めてです。宮越デジタルシ



ステムズの取締役工場長である宇野建彦会長以下15名のチャーターメンバーで発足しました。会員の多くは、大仙市であるが、横手市、秋田市から参加した会員の方々もいます。

スポンサークラブは仙台クラブですが、前会長で現キワニス共同基金委員長の佐藤嘉昭氏が生みの親です。佐藤氏の腕力のもと関係会社と取引先を中心に強引に



作られたとの会長挨拶に、参加者からは、賞賛とも同情とも取れる笑いと拍手が巻き起こりました。

来賓の大仙市の副市長の祝辞は、キワニス大歓迎の一色でした。そして嬉しいことにキワニスの新会員となる意思表示もいただくこととなりました。

小川ガバナー代理から宇野会長にチャーターが贈られ、満場の祝福の拍手を受けて、正式に秋田クラブが船出しました。

祝福に訪れたキワニアンは、全国11クラブから35名の多くに上りました。最大は、仙台クラブからの17名で最近仙台クラブ内に誕生した仙南サテライトからも4名の参加がありました。現在会員は13名とのことで15名を超えたら正規クラブに昇格したいとの力強い声も聞こえました。

祝賀会は、田沢湖の勇ましい龍神太鼓を聞きながら秋田の美酒の杯を重ねているうちにあっという間にお開きの時間となってしまいました。(吉田浩二会長)

福井県人サテライトクラブ 活動報告 2015. 5. 23

2015年5月23日、福井県に全国33番目のキワニスクラブが発足いたしました。北陸3県では2006年の金沢クラブに次ぐクラブの新設です。福井県人サテライトクラブは2013年12月に発足以来、福



井にクラブ新設を最終の目標にして活動してまいりました。2011

年にクラブを作ろうと手を挙げ、福井に乗り込んでの五里霧中の活動でしたが、昨年の秋口から情勢は好転、救いの神にめぐり会うことができました。近年の九州地区の新設ラッシュ、また本年の秋田・大垣にも先を越されましたが、福井クラブはどんなことがあろうとも北陸新幹線開通の記念の年に開設することを気概に、退路を断って頑張りました。お蔭様で、発足時24名のご賛同を得て、過日設立総会を開催した次第です。親クラブの東京の皆

さま、日本地区の皆さまの過分のご指導・ご支援をいただきました。ここに謝して御礼を申し上げます。有難うございました。

ご承知の通り、福井県人サテライトは東京クラブでの最初のサテライトとして発足し、これまで本誌で3回掲載をいただきました。サテライトとは云え、事業計画の着実な実行とクラブメンバーの開拓増員に注力して、クラブの持続的継続を図ることが組織活動の眼目でありますが、福井クラブのこれからの活動にいかに関与していくか、また一部メンバーが福井の会員になっております。福井県人サテライトの今後の在り方について、現状をよく見据え、サテライト会員および関係の皆さまのご意見・お考え等を十分にお伺いし、9月までに最良の方向付けをしてまいります。

福井キワニスクラブは発足いたしました。子どものために奉仕していくことをモットにしておりますが、キワニスについてこれから学習をしてまいります。どうか今まで以上にご指導・ご支援をお願い申し上げます。

(藤井和雄福井県人サテライトクラブ会長)

臨時総会で定款一部改正が成立

2015. 5. 15

法人改革による制度改正で一般社団法人となった東京キワニスクラブは、去る5月15日の臨時総会で2度目の定款改正を満場一致で議決しました。

今回の改正は国際キワニス本部(以下「本部」と言います。)が新たなクラブ標準規約書式を作成して全世界のクラブに本年9月末までに採択と本部の承認を得るよう求めていることに対応したものです。

当クラブは日本地区内の他のクラブと異なり昭和42年から法人となっていて法人法の規制があります。そのため、例えば本部書式では、会長はクラブ総会で選出しますが、法人法では、総会では理事・監事を選任するだけで会長等は理事会で互選します。こうした相違点が数多くあって本部の書式はほとんど使えません。そこで昨年来本部に法人法と定款の関係を説明して、出来れば従来そのまま定款を改正する事無く本部の承認を得ようと、理事会の了解の下、折衝を続けてきました。

その結果、本年1月の本部役員会で

①本部の認証を得た国際キワニスのメンバーであること(定款第1条)



②国際キワニス定義する「キワニスファミリー

リーのメンバーとして不相応な行い」をした会員を懲戒処分する。しない場合は認証が取り消されることがあるという2点のほかいくつかの条文の追加等を行うことで本部の承認を得ること(定款第13条)

などいくつかの修正を条件に定款が承認されました。今回の改正はこれらの諸条件を取り込んだもので、当クラブは従来どおりの活動を続けられます。

今回の折衝等では、当クラブ会員の小田前ASPAC議長、同じく北里現国際理事、前・現会長及び松見会員初め多くの方々のご助力を戴きました。ここに御礼を申し上げます。 (伊藤康成会員)

FAMILY DAY 2015. 5. 29

5月29日(金)「第65回東京キワニスクラブファミリーデー」が大手町の銀行倶楽部で開かれ、80名の出席者で賑わいました。

3月入会のドラマプロデューサー内丸会員の歯切れの良い司会のもと、吉田会長の開会挨拶、吉國副会長の乾杯に始まり、続いて100周年記念特別章・ウォルタゼラー章・ヒクソンフェロー・メジャーギフトの贈呈式が行われました。15名の受賞者を代表して横川端会員

が「記念特別章」を北里国際理事より受け取りました。

1時間の懇談の後には和楽器オーケストラ「むつのを」の演奏が有り、会に大きな花を添えました。古典「春の海」やお子様向けのディズニー音楽、そして当会の主



要層向けの「水戸黄門のテーマ」まで顧客目線に徹したプロの技でした。

今回は新入会員モンゴル出身力士時天空関が初出席、一緒に写真を撮ったり、握手、抱っこをしたりと子どもたちも大喜びでした。

お子様参加の5家族にはノベルティグッズセットのお土産も付きました。

恒例の棚澤副会長進行の福引は、ワイン・家電製品・食事券等に加え時天空会員からの大量の浴衣地・横綱の手形の提供も有り2人に1人は当たると云う豪華なものとなりました。

尚、寄付・福引券代・バザー売上の総額は500,930円でした。

心も足取りも軽く家路に着いた楽しい一日でした。

(鈴木祐二事業企画委員長)



初めてファミリーデーに参加して（印象記） 2015. 5. 29



初ファミリーデーは、実行委員に加えて、司会進行の大役もあり、とても緊張して臨みました。しかし、それは杞憂でした。多くの先輩方のバックアップのおかげで最初の緊張が嘘のように、楽しく参加することができたのです。

また、自身への刺激にもなりました。短いながらもウィットがきいた素敵な挨拶の数々。和楽器オーケストラ「むつのを」の選曲のセンスのよさ。福引進行を下さった棚澤副会長の見事な機転など、さりげない配慮が全体の和やかな雰囲気を作り出すことに感銘を受けました。

中でも、新入会員の時天空関が、日ごろから子どもたちへの支援をされていることを話されたことが印象深く残っています。大人が子どもたちに支援をするのは「当た

り前のこと」だと今さらながら気付かされました。

これを機に、今後、自分に何ができるのか意識して模索できたらと考えておりますので、助言いただけたら幸いです。

皆様、楽しいひと時をありがとうございました。深謝。

(内丸摂子会員)



2015年2月から5月までの活動

2015 年 2 月	3	火曜会
	4	三井住友海上火災保険ドールをつくる会
	5	宝塚観劇会(宙組公演)
	6	第2194回例会(講師:永富明郎氏)
	8	第3回オペラを楽しむ会(こうもり)
	10	火曜会
	12	第70回日本酒を楽しむ会
	15	第44回文楽を楽しむ会
	17	火曜会
	19	第21回ワインを楽しむ会
	20	第2195回例会(講師:吉田穂波氏)
	20	アクセンチュア 社会貢献プログラムドールをつくる会
	22	第44回文楽を楽しむ会
	24	火曜会
	24	第88回囲碁愛好会
3 月	25	第69回国際懇話会(講師:谷野作太郎氏)
	31	火曜会
	1	第44回文楽を楽しむ会
	3	火曜会
	5-7	ASPAC クラークフィールド大会
	10	火曜会
	12	第71回日本酒を楽しむ会
	13	第2196回例会(講師:林恵子氏)
	16	海軍航空隊記念館と須藤本家(蔵元)見学会
	17	火曜会
	19	GAP ドールをつくる会
	19	宝塚観劇会(雪組公演)
	20	第2197回例会(講師:鳥居正男氏)
20-22	第6回美術を楽しむ会	
24	火曜会	
24	第89回囲碁愛好会	

4 月	3	第2198回例会(講師:賀藤均氏)
	7	火曜会
	8	春季ゴルフ大会(我孫子 GC)
	9	第72回日本酒を楽しむ会
	11	第7回ユースフォーラム交流会
	14	火曜会
	14	第70回国際懇話会(講師:田中浩一郎氏)
	16	秋田キワニスクラブ認証状授与並びに祝賀会
	17	第2199回例会(講師:新保幸男氏)
	17	エリミネイトプロジェクト支援第12弾コンサート
	18	神韻世界ツアー2015 日本公演
	21	火曜会
	22	靖國神社 春季例大祭
	23	宝塚観劇会(星組公演)
5 月	28	火曜会
	28	第90回囲碁愛好会
	8	エリミネイトプロジェクト支援第13弾 デュオ・リサイタル
	10	第45回文楽を楽しむ会
	12	火曜会
	14	MSD 社会貢献プログラム ドールをつくる会
	14	第73回日本酒を楽しむ会
	15	第2200回例会(講師:鳥羽美花氏)
	16	第7回キワニスドール・シンポジウム
	19	火曜会
	19	第91回囲碁愛好会
	21	宝塚観劇会(花組公演)
	22	MSD 妻沼工場社会貢献プログラムドールをつくる会
23	福井キワニスクラブ設立総会	
24	第45回文楽を楽しむ会	
24	大相撲夏場所観戦	
26	火曜会	
26	千代田クラブチャリティコンサート	
29	キワニスドールをつくる会	
29	第2201回例会 第65回ファミリーデー	

2015年6月から9月 今後の予定

2015 年 6 月	2	火曜会
	5	第 2202 回例会(講師：花房晴美氏)
	6	田園調布学園ドールをつくる会
	9	火曜会
	11	第 74 回日本酒を楽しむ会
	12	桐朋女子中高等学校ドールをつくる会
	16	火曜会
	18	ワインの会
	19	第 2203 回例会 (講師：宮越極会員)
	20	夢スピーチコンテスト東京
	21	慶應義塾大学ドールをつくる会
	23	火曜会
	23	第 92 回囲碁愛好会
	25	宝塚観劇会(月組公演)
	25 ↓ 28	第 100 回国際キワニス年次総会 インディアナポリス大会
	30	火曜会
30	キワニスワンデー子ども食堂	
7 月	3	第 2204 回例会(講師：関 啓子氏)
	6	大垣キワニスクラブ認証状授与並びに祝賀会
	7	火曜会
	8	第 71 回国際懇話会 (講師：浜田宏一氏)
	9	第 75 回日本酒を楽しむ会
	14	火曜会
	17	第 2205 回例会 (社会公益賞表彰式)
	18	キワニスドールをつくる会(於：パソナ)
	21	火曜会
	24	京都クラブ祇園祭(後祭)例会
	28	火曜会
	28	第 93 回囲碁愛好会
30	サマーパーティ	
31	第 2206 回例会 (講師：徳川恒孝会員)	

8 月	7	第 2207 回例会 (講師：吉田誠男氏)
	18	火曜会
	21	第 2208 回例会 (講師：佐藤正宏氏)
	25	火曜会
	25	第 94 回囲碁愛好会
	27	宝塚観劇会(宙組公演)
9 月	4	第 39 回国際キワニス日本地区年次総会 埼玉大会
	5	青少年教育賞贈呈式&交流会
	6	第 46 回文楽を楽しむ会
	10	第 76 回日本酒を楽しむ会
	11	第 2209 回例会 (講師：西川徹氏)
	13	第 46 回文楽を楽しむ会
	18	第 2210 回例会
	29	第 95 回囲碁愛好会

■平成 27 年 5 月 31 日現在 総会員数 243 名

■平成 27 年 2 月 1 日から 5 月 31 日までに入会された方 5 名

内丸摂子、小川恵三、木本健、田口徹、時天空慶晃

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気のその子だけの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウムを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成 18 年 7 月 14 日に、商標登録いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて (破傷風から世界の母と子ども達を救おう)

国際キワニスとユニセフの協力で世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅します

2011年7月のジュネーブでの第96回国際キワニス年次総会に於いて、国際キワニスは、世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅するために2015年までに1億1千万ドルの募金活動を行うというエリミネイト・プロジェクトを正式にスタートさせました。この世界的なキャンペーン活動は、キワニスの国際ボランティアネットワークとユニセフの医療ネットワークの協力により進める歴史的なプロジェクトです。

エリミネイト・プロジェクトの基本データは次の通りです。

- 妊産婦・新生児破傷風は、スタート時は、9分に1人、毎日160人の赤ちゃんの命を奪っていたが、皆様のご支援のお蔭で、奪われる命が2014年12月現在11分に1人、毎日135人に減少した。
- 妊産婦・新生児破傷風は、1回60セント、計3回1.8米ドル (約180円) のワクチン注射で母と将来の赤



ちゃんの命を守ることが出来る。

- エリミネイト・プロジェクトは、6,100万人のお母さんと赤ちゃんを助けることが出来る。

日本は破傷風撲滅の先駆者—誇りを持ってこの活動を推進しています

2015年6月のインディアナポリスでの100周年の国際年次総会で、成果を「お祝いする」ことができるよう、全員で努力を続けています。

東京キワニスクラブは、先に達成した100Kクラブに続き、モデルクラブの目標\$165,000も5月20日に達成しました。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Ke-Wan-is” (みんな一緒に集まる) に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約80ヶ国、7,500のクラブ、約21万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎、宮崎、佐賀、秋田、大垣、福井の順に生まれ、現在33のクラブで会員は約1,900名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 吉田 浩二 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>